

トークと狂言鑑賞の夕べ

●第1部トーク「武智鉄二をしのんで」

出演：権藤芳一（演劇評論家）吉田文雀（人間国宝 / 人形浄瑠璃文楽座・人形遣い）水田かや乃（園田学園女子大学教授 近松研究所研究員）司会進行：河内厚郎（文化プロデューサー）

歌舞伎や狂言の演出に挑み、映画の製作や監督にも取り組んだ、武智鉄二をよく知る演劇評論家・権藤芳一氏と、人間国宝の文楽人形遣い・吉田文雀氏が、故人の思い出を語り、飯沢匡・作、武智鉄二・演出の狂言『濯ぎ川』を善竹隆司・隆平・忠亮らが演じます。



権藤芳一



吉田文雀



水田かや乃

●第2部狂言『濯ぎ川』上演

出演：善竹隆司・善竹隆平・善竹忠亮

武智鉄二

広汎な知識と深い洞察力で他の追随を許さなかった劇評家。演出にも辣腕をふるい、「武智歌舞伎」のムーブメントを起こした当時、芦屋市に居を構えていた。



2012. 10.7 (日) 18:30 開演 (18:00 開場)

■会場：芦屋市民センター ルナ・ホール

1階席 前売 1,000円 当日 1,200円

2階席 500円 (前売・当日共)

8月15日(水)より発売開始 全席指定

■主催：芦屋市・芦屋市教育委員会 ■協力：学校法人 甲南学園

■チケット販売所

●芦屋市民センター事務所

●芦屋市役所売店

●ローソンチケット (Lコード 59865)

■問い合わせ ルナ・ホール事業担当

電話 0797-35-0700

(〒659-0068 芦屋市業平町 8-24)

風雲児・鬼才・怪人…さまざまな代名詞で呼ばれた武智鉄二（1912～1988）は戦前から齒に衣着せぬ辛口の劇評で知られ、大戦末期には軍部の強圧により劇場が閉鎖され未曾有の危機に見舞われた古典芸能を守るため、各界の名人たちを集めた「断絃会」をプロデュース。昭和24年大阪四ツ橋の文楽座で開幕した「関西実験劇場」のちに武智歌舞伎と呼ばれる若手俳優の公演では原作尊重の精神を貫いて現・坂田藤十郎らの逸材を育てました。その後も能・狂言様式によるオペラや新劇などの演出に取り組み、東京に本拠を移してからは映画の制作や監督にも取り組んで物議をかもしました。広汎な知識と深い洞察力で他の追隨を許さなかった天才です。

第1部トーク「武智鉄二をしのんで」

吉田 文雀（よしだ ぶんじゃく）人形浄瑠璃文楽座・人形遣い

甲陽中学校（現・甲陽学院）中退後、文楽座に入座。二世吉田玉市の預かりとなり、吉田和夫と名乗る。同年、南座で初舞台。昭和25年、三世吉田文五郎の門弟となり、四ツ橋文楽座に於いて吉田文雀と改名する。国立劇場文楽大賞、芸術選文部大臣賞、紫綬勲章ほか数々の賞を受賞し、平成6年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される。同年、第14回伝統文化ポーラ特賞、兵庫県文化賞受賞後も、国立劇場文楽賞特別賞、大阪芸術賞、多数の賞を受賞。平成11年、勲四等旭日小綬章。西宮市在住。

権藤 芳一（こんどう よしかず）演劇評論家

同志社大学文学部卒業。武智鉄二に師事し、雑誌『演劇評論』の編集、前衛・実験劇の演出助手を務めた後、昭和33年より京都観世会館に事務局長として30年勤務。のち平成元年より大阪学院大学国際学部で古典芸能を講ず。同13年3月退職、現在フリー、演劇評論に幅広く活動。著書に『近代歌舞伎劇評家論』、『世阿弥を歩く』、『能舞台の主人公たち（「能に生きる歴史群像」改題）』、『能楽手帖』、『文楽の世界』、『双蝶々曲輪日記・本朝廿四考（カブキ・オン・ステージ19）』、『上方歌舞伎の風景』。『戦後関西能楽誌』編著に『日本の古典芸能8・歌舞伎』、『日本庶民文化史料集成6・歌舞伎』など。

水田 かや乃（みづた かやの）園田学園女子大学教授 近松研究所研究員

昭和62年早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手。昭和64年早稲田大学大学院文学研究科芸術学（演劇）専攻博士課程単位取得退学 文学修士。同年園田学園女子大学近松研究所研究員。平成15年生誕350年記念「近松祭」に参画し、早大演劇博物館・尼信博物館で「近松展」、大阪NHKホールで近松シンポジウム開催に関わる。平成16年「南条好輝の近松二十四番勝負」（トリイホール）を監修し、近松の原作に忠実な現代の大阪言葉による脚本を南条氏と共に執筆。平成19年度兵庫県芸術奨励賞受賞。

第2部狂言『濯ぎ川』上演



<あらすじ> 気の弱い夫は日頃から嫁・姑にいびられ、用事を言いつけられて使われるばかり。あまりに用件が多いので紙に書いてもらい、「書いてない事はしなくてもよい」と約束します。その後洗濯に出掛けた夫は、過って川に小袖を流してしまい、それを取ろうとした嫁は川に落ちてしまいます。姑はすぐに助けるように言いますが、夫は書き付けにないので、助けようとしません。



善竹 隆司（ぜんちく たかし）

大蔵流狂言方 二世善竹忠一郎の長男で父に師事。故人人間国宝・善竹彌五郎の曾孫にあたる。大阪芸術大学舞台芸術学科・兵庫県立宝塚北高校演劇科講師。手塚治虫作品から新作狂言「勘当息子」「老人と木」を手がける。「神戸ブルーメール賞」平成15年度「兵庫県芸術奨励賞」第3回「神戸キワニス文化賞」平成23年度「大阪文化祭賞」受賞。

善竹 隆平（ぜんちく りゅうへい）

大蔵流狂言方 二世善竹忠一郎の次男で父に師事。兵庫県立宝塚北高校演劇科講師 「神戸ブルーメール賞」平成15年度「兵庫県芸術奨励賞」平成18年度「文化庁芸術祭新人賞」平成23年度「大阪文化祭賞」受賞。



善竹 忠亮（ぜんちく ただあき）

大蔵流狂言方 善竹忠重の長男。四歳で初世・善竹忠一郎に手解きを受け、同年初舞台。以降、父に師事。先代宗家をはじめ、一族諸兄にも教えを受ける。現在、立命館大学・先端総合学術研究科に在籍。

